

# 3. 人の行為と情報

～行為における情報の必要性～

- ◆ 3-1行為
- ◆ 3-2意志
- ◆ 3-3意図
- ◆ 3-4企図
- ◆ 3-5意思決定
- ◆ 3-6行動
- ◆ 3-7人の行為と、データと情報と知識
- ◆ 3-8行為と情報技術
- ◆ 3-9まとめ

## 2. 情報の概念 復習

- ◆ 一般に情報と呼んでいる言葉の中には、3つの概念が含まれる。
  - 資料（データ）
  - 情報
  - 知識
- ◆ データと情報の区別はされておらず入れ替えが可能であるが、情報のほうが良く使用されている
- ◆ 知識は知識構造を持ち、情報により知識構造が変化すると概念的に理解される。

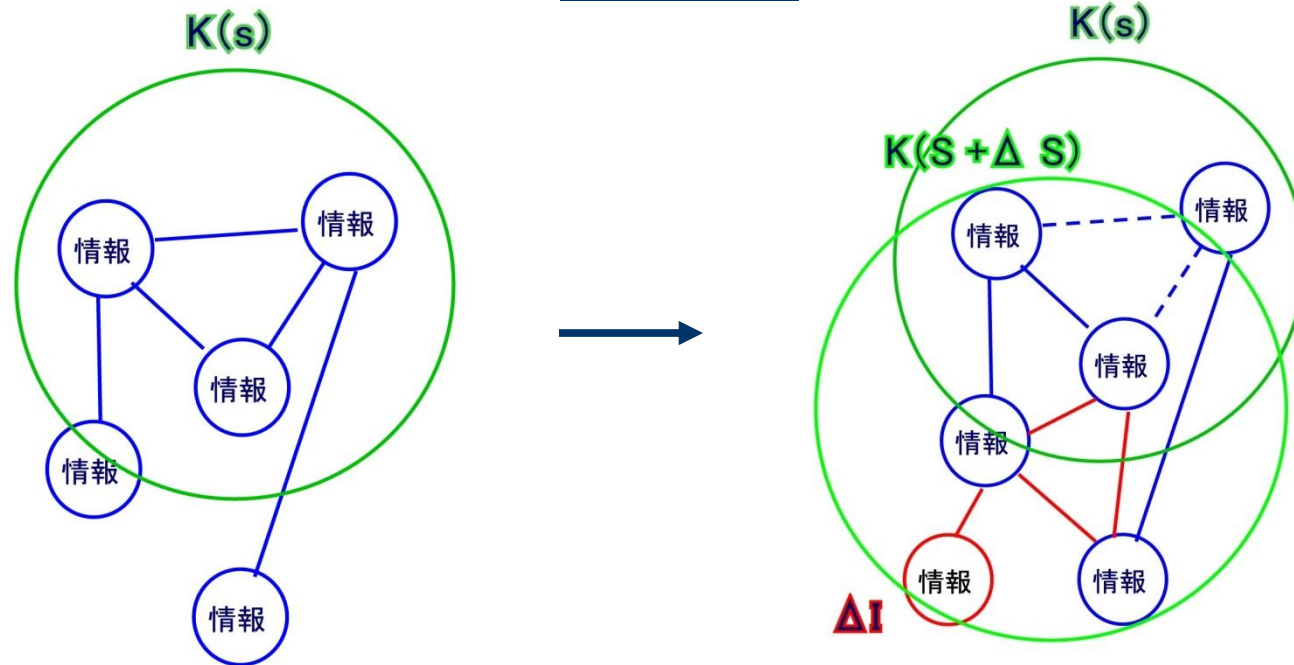
# 情報と知識 復習

- Brookes、1980
- 情報とは知識の構造を変えるものである
- $K(s) + \Delta I = K(S + \Delta S)$ 
  - S:現在の知識
  - K[S]:知識構造
  - $\Delta I$ :情報
  - $\Delta S$ :付加された知識
  - K[S+ $\Delta S$ ]:新しく修正された知識構造

# データと知識

- ◆ データとの知識の関係も類似の修正式で表現可能
- ◆  $K(S) + D = K(S) + \Delta S$ 
  - S:現在の知識
  - K[S]:知識構造
  - D:データ
  - $\Delta S$ :付加された知識
- ◆ データDが知識構造K(S)に加わっても知識構造K(S)に影響を及ぼすことはなく知識 $\Delta S$ が増加するのみである
- ◆ 情報は知識構造K(S)に構造の変化を与えるがデータは知識構造K(S)に変化を与えない
- ◆ 知識がデータを情報に変えることができれば、知識構造が変化する

# 知識構造のイメージ



- ◆  $\Delta i$ が追加される事により、個々の情報の関連性が変化し、知識が増えるとともに、知識構造(情報の相互関係)が変化

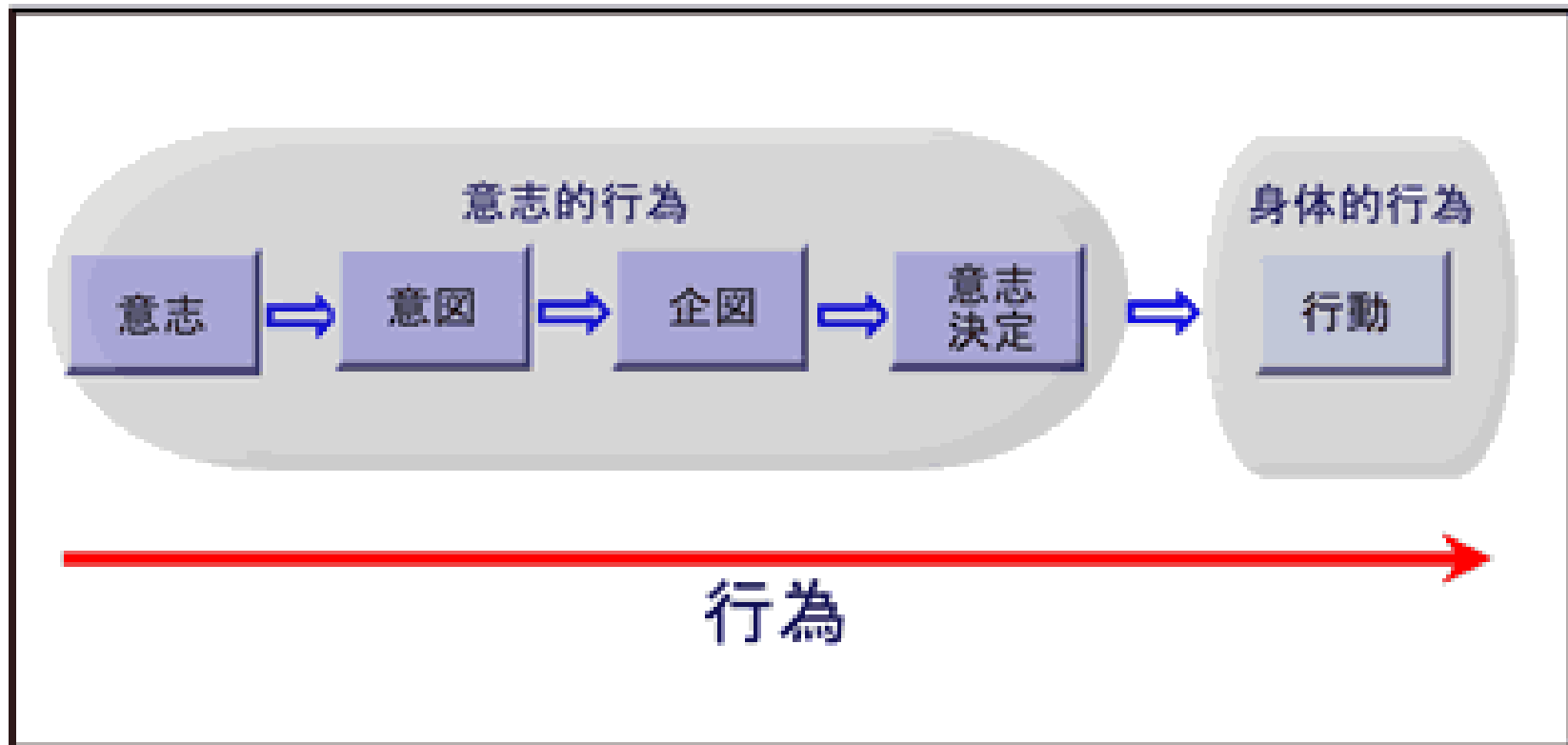
## 3-1 行為

- ◆ 行為は自己実現のために行われる
- ◆ 未だ己のものとなっていない、己の目的を実現すること
- ◆ 人の行為は、意志、意図、企図、意思決定、行動からなる
- ◆ 情報は行為を成すことと密接な関係を持つ

# 人の行為

- ◆ 意志
  - 行為の発動根拠
- ◆ 意図
  - 意志に基づいた目的や目標
- ◆ 企図
  - 意図を実現するための企て
- ◆ 意思決定
  - 企図を実行に移すか否かの決断
- ◆ 行動
  - 意思決定に基づいた行動

# 行為の過程



# 意志的行為と身体的行為

- ◆ 意志的行為
  - 他人から認識されない
  - 行為の大半は他人から認識されない
  - 個人にとっては行為の大半は意志的行為
- ◆ 身体的行為
  - 他人から認識される
  - 行為の最後の段階だけが他人から認識される

# 行為と情報

- ◆ 行為の過程
  - 意志-意図-企図-意思決定-行動
- ◆ 情報（知識、情報、データ）
  - 行為の全ての過程に情報は関連する
  - 行為は、未だ己のものとなっていない、己の目的を実現すること（自己実現）
  - 自己実現のために情報が果たす役割は大きい

## 3-2意志

- ◆ 行為の最初に位置する
- ◆ 行為主体における行為の発動根拠
  - 成し遂げようとする心そのもの
  - ある目的を実現するために自発的で意識的な行動を生起させる内的意欲（スーパー大辞典）
  - 道徳的価値評価の原因ともなる。反射的・本能的な行動とは区別される（スーパー大辞典）

# 意志

- ◆ 自己実現の基本となるもの
  - 自己以外の何者によっても妨害されない
  - 自分自身がしたいあるいは欲しいと思う内容そのもの
- ◆ 心や欲求そのものであっても、その形成には知識・情報・データが必要となる
  - 強い意志は人の知的活動によって生起する
  - 自己の意志を創るのに特に重要なのは知識

# 自由意志に基づく選択と情報

- ◆ 行為は行為者自身の選択のみに依存する
  - 行為者の目的を実現するための選択そのものが自由(非決定的)である
- ◆ 個人が自らの意志で行為を行なうためには自由な選択が前提となる
  - 選択が自由であればあるほど、選択を行なうための情報(知識)が重要となる

## 3-3意図

- ◆ 意志に基づいてしようとしている目的や考えている事柄
- ◆ 意志を実現するため目的と目標の設定を行う段階
  - 漠然とした目的の設定だけでは意志の達成は困難
  - 目的の到達程度を示す目標の設定も重要
- ◆ できる限り意図の段階で目的と目標を明確にすることが重要

- ◆ 意図の整理が不十分なまま行為を押し進めると、設定したはずの目的に、行為の途中で疑問を持つことになる
- ◆ 目的を持たないあるいは目標がうまく設定できないのは自分の意志が良く整理されていないことによる

## 3-4 企図

- ◆ 意図を実現するための企てや計画や企画
- ◆ 意図に基づいた目的と目標を達成するためにいくつかの実現可能な計画や企画を組み立てる段階
- ◆ 意思決定における選択肢を準備する段階

- ◆ Q1人の行為は、意志→ A→ B→ C  
決定→行動よりなる。Aに入る言葉を選択しなさい

1 意図 2企図 3意志 4意思 5企画

- ◆ Q2Bに入る言葉を選択しなさい

1 意図 2企図 3意志 4意思 5企画

- ◆ Q3 意志とは行為主体における行為の発動Dで、成し遂げようとする Eそのものである。」Dに入る言葉を選択しなさい。

1拠点 2始点 3原点 4根拠 5過程

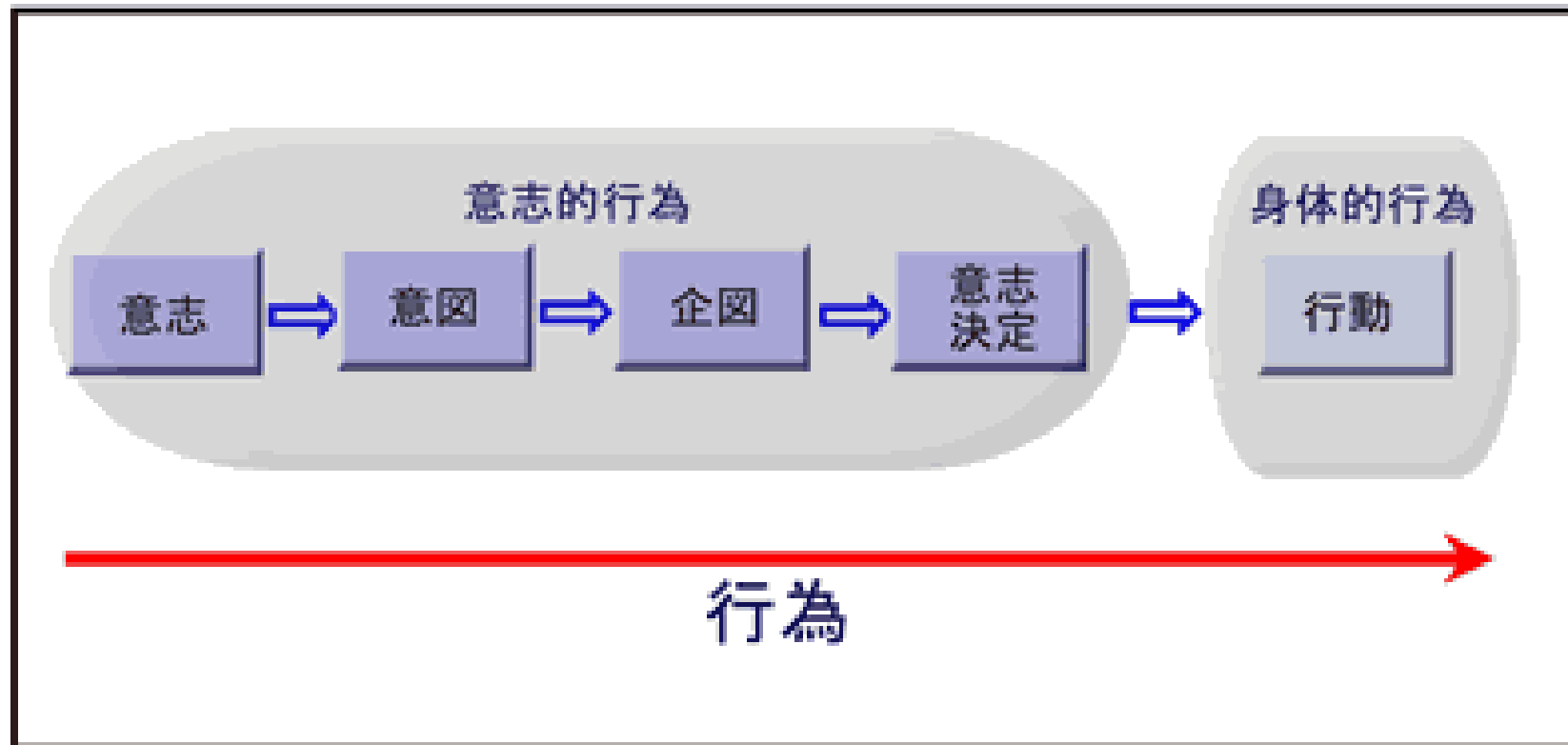
◆ Q4 Eに入る言葉を選択しなさい。

1意思 2意欲 3心 4目的 5行為

◆ Q5意図は意志にもとずいてしようとしているFや考えている事柄である。Fに入る語を選択しなさい。

1手段 2目的 3事柄 4思い 5行為

# 人の行為 行為の過程 復習





## ◆ 意志

- 行為主体における行為の発動根拠
- [President Says Saddam Hussein Must Leave Iraq Within 48 Hours.htm](#)

## ◆ 意図

- 意志を実現するため目的と目標の設定を行う段階

# 3-5意思決定

- ◆ 意志決定と意思決定
  - 意思決定が判断にあたる
- ◆ 意思 mind (intention)
  - 何かをしようと心に決めること、本心、考え
- ◆ 意志will
  - 目的を実現させるための自発的、意識的な行動を生起させる内的意欲。道徳的価値評価の原因となる

- ◆ 企図で準備した実現可能な計画や企画を絞り込む段階
- ◆ 選択肢から一つを選択する段階
- ◆ 意志に基づいて最終的に実行する手段を決定し、実行に移すか否かを決断する段階
- ◆ 行動に移さない意思決定もある
- ◆ 意図の目的や目標が判断基準となる
  - 経営における意思決定、統計的意思決定理論、心理学アプローチなど多くの考え方・手法がある
  - 意志の再確認や、目的・目標に基づく判断基準の設定が決断手法より重要

## 3-6行動

- ◆ 行為の最終段階
- ◆ 行動により行為が完了する
  - 意志的行為(意志、意図、企図、意思決定)と区別される
- ◆ 行為の中で他人から初めて唯一認識される
- ◆ 刺激に無意識に反応する動物的行動は、意志的行為を伴わないため行為ではない

# 行動と責任

- ◆ 行動により他人に行為が認識される
- ◆ 行動は身体的行為であり、対外的に意志的行為と大きな違いが生じる
- ◆ 他人との関係が生じることから行動の結果について責任が問われる
- ◆ 法的責任
- ◆ 道徳的責任
- ◆ (参考文献)
  - 岡部 勉: 行為と価値の哲学、九州大学出版会、1995
  - 有福 孝岳: 行為の哲学、状況出版、1997

## 3-7人の行為と、データと情報と知識

### 1) 意志と知識

- ◆ 個別のデータや情報
  - 意志を持つきっかけとなる
- ◆ 知識
  - きっかけを意志に結びつける
  - データや情報を意志に結び付けるには個人の知識(構造)が関与する
- ◆ 意志の形成には知識(構造)が最も大きな影響を持つ

## ◆ 意志形成と外部からの影響

- 意志は自己以外の何者によっても妨害されない
- 反面、外部からの影響を受けやすい
  - 他人の意見や行動
  - マスコミの情報など
- 意志形成に外部からの影響を受けやすい状況
  - 自己の意志がない
  - 知識が乏しい
  - 自分で意思決定できない(自信が持てない)

## 2) 意図とデータ

- ◆ 目的あるいは目標の設定段階
  - 知識と知識をおぎなう情報が必要
  - 特に不確実でも新しいデータが必要
  - データを情報に変える知識が要求される
- ◆ 目的や目標の変化
  - 同じ意志に基づいても、知識(構造)が異なれば目的や目標が変わる
  - 同じ意志に基づいても、使用する最新のデータや情報が異なれば目的や目標が変わる

## 3) 企図と情報

- ◆ 情報を収集し、得られた情報から実行可能ないくつかの手段を選定する
- ◆ 情報をできる限り多く収集する
  - 実行可能な手段の選択肢が増える
  - 的確な意志決定が可能になる
  - その結果、目的目標に到達できる可能性が高くなる
- ◆ 情報収集が最も重要な段階
  - 既に持っている知識で処理可能な、新しいデータと情報を収集する

## 4) 意思決定と情報

- ◆ 情報収集で得られた複数の選択肢の中から、実行する手段を決定する
- ◆ 実行内容を決定するには多面的に判断する必要があることから広範囲の情報を総合的に使用する
  - ①自己の知識(構造)
  - ②企図に基づいて収集した情報
  - ③判断のために加工した情報

# 意思決定と評価基準

- ◆ 評価基準
  - 意図の段階で設定した目的と目標が意思決定のための評価基準となる
  - 明確な目的と目標の設定が意思決定や行為に非常に重要なことが確認できる段階
- ◆ 行動を伴わない意思決定
  - 失敗の確立が高いことが好ましくない場合
    - 行動すると目的・目標に遠くなる可能性が高い場合
    - 行動しなくても現状に満足できる場合
  - 強い意志が無い場合

# 情報の差と意思決定

- ◆ 収集した情報が多いほうが企図段階の選択肢が増える
- ◆ 意志と目的、目標、情報量が同じでも、知識が豊富なほうが多くの可能性を検討できる
- ◆ 一方、意志と目的、目標、知識が同じでも、利用できるデータと情報と知識が多い方が的確な意思決定が可能となる

## 5) 行動と情報と責任

- ◆ 行動の修正
  - 意思決定で想定した通りに行動を実行しても目的や目標を達成できることは殆どない
  - 現実に対応した修正を加えながら行動する
  - 現実に対応するため既に収集したデータ、情報を活用するが、新たな情報収集が必要になる場合が多い
- ◆ 意志の強さ
  - 行動を継続することに決定的な影響力を持つ

# 行動と責任

- ◆ 行動の責任は自分でとらざるを得ない
- ◆ 法的責任の範囲
  - 法律の知識が必要
  - 例: 食品の賞味期限の違法表示
- ◆ 道義的責任
  - 個人のモラルに依存する
  - 企業の道義的責任は大きくなっている
- ◆ 他人の意見は参考にしても他人の意見に安易に従う行為は避ける
- ◆ 行動の前の意思決定は必ず自分で行う

# 行動と情報発信

- ◆ 行動は結果として情報発信を伴う
  - 行動はそれを受け止める相手にとっては情報を受信すること
- ◆ 行動の結果生じる情報には行為者の意志が含まれる
  - 行動は意志に基づく行為の結果である

## 3-8行為と情報技術

- ◆ 意志の形成に利用できる技術
  - 知識の継続的な取得技術
  - E-learning: 継続的に自ら学ぶ
  - Web情報の利用
  - 図書館の利用
- ◆ 意図
  - 情報検索
  - 2次データの利用
- ◆ 企図
  - 情報検索・情報収集
  - ヒューマンネットワーク
  - メール



## ◆ 意思決定

- 先行文献の検索
- ヒューマンネットワーク
- 情報の統計的処理
- 自らの意志に基づいた論理的判断を助ける手法や技術

## ◆ 行動

- Web情報の発信
- プレゼンテーション

## 3-9まとめ

- ◆ 人の行為は、意志、意図、企図、意思決定、行動からなる
- ◆ 意志は自己実現の基本となるもので行為の発動根拠。意志の形成には知識が重要である。
- ◆ 意図の段階で設定する目的と目標が後の情報活動に重要となる。

- ◆ 企図の段階では情報収集が重要
- ◆ 意思決定では、広範囲のデータ、情報、知識が使用されるが、知識がベースとなる
- ◆ 行動には責任がともなうので、法的責任、道義的責任に関する知識を身につける必要がある
- ◆ 行動は情報発信を伴う

## 問題2

- ◆ Q1 意図の整理が不十分なまま行為を押し進めると、設定したはずのAに行為の途中で疑問を持つことになる。Aに入る語を選択せよ  
1行為 2企図 3意思 4意志 5目的
- ◆ Q2 人の行為は意志的行為とB的行為からなる。Bに入る語を選択せよ  
1身体 2意思 3受動 4能動 5選択
- ◆ Q3 意思決定では意志に基づいて実行するCを決定し、Dに移すかを決断する。Cに入る語を選択せよ  
1行為 2手段 3判断 4目的 5目標

## Q4 Dに入る語を選択せよ

1行為 2行動 3判断 4修正 5分析

### ◆ Q5間違っているものを選択しなさい

- 1 行動により他人から初めて行為が認識される
- 2 行動は身体的行為である
- 3 行動の結果には責任が問われる
- 4 行動には道徳的責任が伴う
- 5 行動は意志的行為に含まれる